

2-1-1 教員の学位や業績

【次世代教育学部】

こ ど も 発 達 学 科	名前(読み)	内田 伸子 (うちだ のぶこ)
	職 名	教授
	取得学位	学術博士 (英文: Ph. D. in Psychology)
	専門分野 研究領域	発達心理学、言語心理学、認知科学、保育学
	担当授業	教育心理学 発達心理学 子どものこころ
	研究業績	<p><学術論文(抜粋)></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内田伸子 (1981) 「文章理解と知識の獲得における目標構造の役割」『お茶の水女子大学人文科学紀要』第34巻, pp. 53-89. 2. Mason, J. M., Anderson, R. C., Omura, A., Uchida, N. & Imai, M. (1989) Learning to read in Japan. <i>Journal of Curriculum Studies</i>, Vol. 21, No. 5, pp. 308-407. 3. 内田伸子 (1995) 「小学校1年生の国語の成績と幼児用読み書き能力検査の関係」『幼児期における文字の獲得過程とその環境的要因の影響に関する研究』平成4～6年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書(研究代表者東洋) pp. 94-115. 4. 内田伸子(1996) 「幼児期の概念化を規定する知覚的類似性の検討-語意獲得に制約を与える「カテゴリーバイアス-とは何か-」』『平成6～7年度科学研究補助金(一般研究C)研究成果報告書』 5. 内田伸子 (2006) 「ナラティブ・アプローチ」再考-子安論文に対する共感的・賛同的批評-『心理学評論』, 49(3), 431-435. 6. 内田伸子(2007) 「虐待と子どもの発達-子どもが変わる・大人も変わる-」『子どもの虹色虐待センター紀要』No. 7, 53-67. 7. 内田伸子・津金美智子・大宮明子・石田有理 他 (2015) 「乳幼児の論理的思考の発達に関する研究-自発的活動としての遊びを通して論理的思考力が育まれる-」『保育科学研究』第5巻, pp. 131-139. 8. 内田伸子 (2016) 「考える力を育むことばの教育～メタ認知を生かした授業デザイン「論理科」の開発と実践効果の検証」『読書科学』第58巻, 第3号, pp. 109-121. 9. 内田伸子 (2017) (責任編集) 特集号「子どもの貧困-成育環境の及ぼすその影響と対策」日本学術会議機関紙『学術の動向』第22巻, 10号, pp. 3-58. 10. 内田伸子 (2017) 「子どもの貧困と経済格差-貧困は超えられるか? -」『学術の動向』Vol. 22, No. 10, pp. 24-28. 11. 内田伸子 (2021) 「遊びを通しての学び-人間発達における遊びの意味と意義～」『乳幼児医学・心理学研究』Vol.29, No.2, pp.73-83. <p><著書(抜粋)>単著書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内田伸子(2010)『子どもは変わる・大人も変わる-児童虐待からの再生-』お茶の水学術事業会(全125頁). 2. 内田伸子(2011)『子どもは変わる・大人も変わる-児童虐待からの再生-〈改訂版〉』お茶の水学術事業会(全130頁). 3. 内田伸子 (2012)『子育てに「もう遅い」はありません<改訂版>』富山房インターナショナル(全234頁) 4. 内田伸子 (2014)『『0歳からのエデュケアーどの子も伸びる保育への誘い』富山房インターナショナル(全88頁) 5. 内田伸子 (2017)『発達の心理～ことばの獲得と学び』ミネルヴァ書房(全212頁) 6. 内田伸子 (2017)『子どもから見た世界～誕生から6歳までの子育て・親育ち』春秋社(全238頁) [2018年6月15日3版・2020年3月15日6版] 7. 内田伸子 (2020)『『AIに負けない子育て～ことばは子どもの未来を開く』』ジヤース教育新社(全261頁)
所属学会 学会活動	日本教育心理学会、日本心理学会、日本読書学会、日本発達心理学会、日本質的心理学会、法と心理学会、日本認知心理学会、日本子ども学会、国際行動発達学会(ISSBD)	
社会貢献	【学術】日本心理学会常任理事(平成27年3月)日本教育心理学会常任理事(平成27年3月)日本発達心理学会理事・監事、日本読書学会会長・常任理事、日本子ども学会理事、日本認知心理学会監事【社会】NHK「おかあさんといっしょ」の番組開発・コメンテーター、ベネッセの子どもチャレンジの監修、しまじろうパペットの開発、創造性開発の知育玩具開発など。	